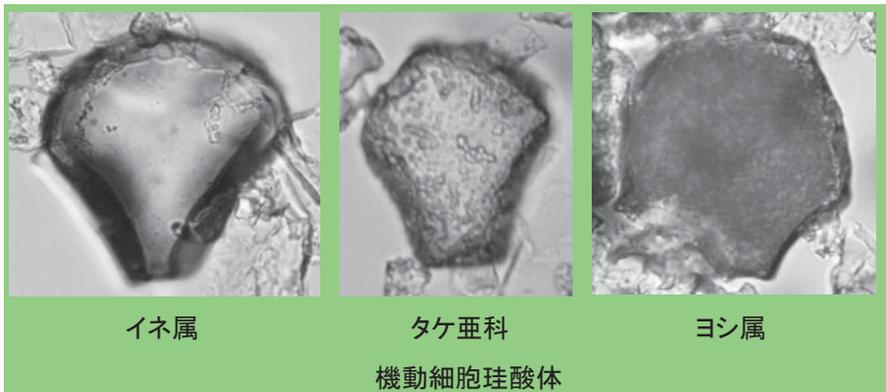
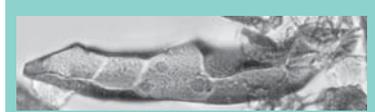
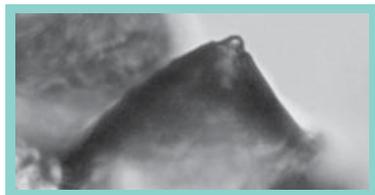
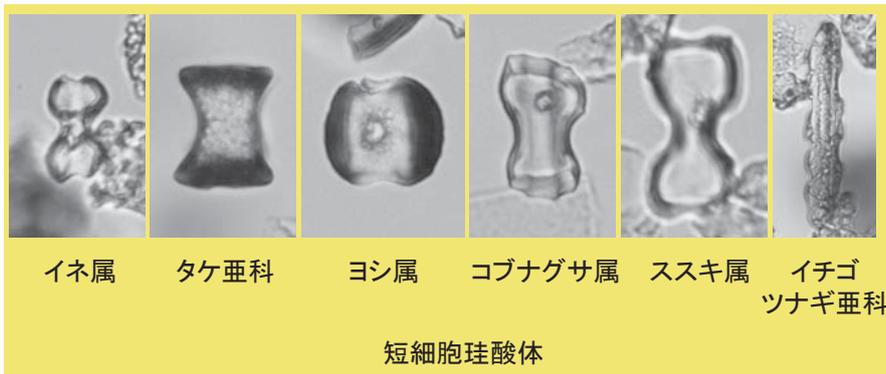
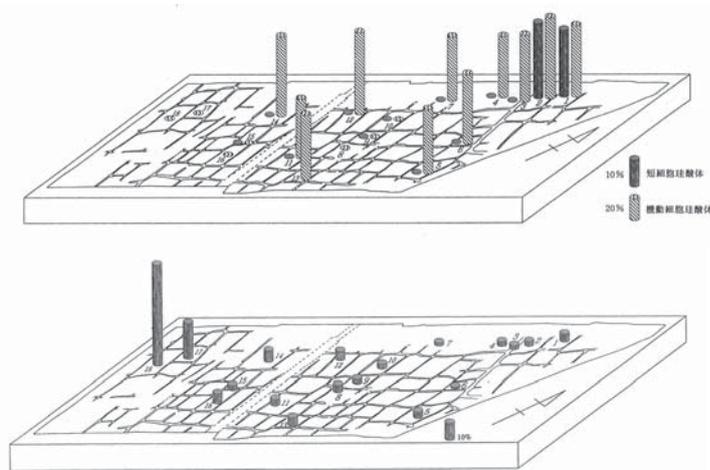


植物珪酸体分析

植物珪酸体は、植物の細胞内に蓄積される珪酸分で、一部の植物に形成されるが、特にイネ科において顕著にみられる。種類によって、特徴的な形態のものが存在するので、当時のイネ科を中心とした（他の分類群も一部判別可能）植生復元に有効である。珪酸質なので、花粉化石などが残りにくい土壌でも残る。このため、低湿地堆積物以外に、ローム層や黒ボク土などの風成層、遺構内の焼土や灰、土器胎土にも残存し、当時の植生や植物利用に関する情報を得ることができる。植物珪酸体分析は、稲作の消長に関して分析を実施することが多いが、他のイネ科や一部の樹木についても同定可能なため、草原植生および照葉樹林などの森林植生の復原にも応用される。当社では、短細胞珪酸体、機動細胞珪酸体の両方を同定対象とすることにより、同定精度を高め、より多くの分類群の検出に努めている。



その他



水田遺構上での植物珪酸体分布状況

